

おけのこ

アサギマダラ (姫島村)

第2回定例県議会 米国追加関税へ迅速な対応を ホーバークラフト空港定期便が再就航



六月十一日に開会した第二回定例県議会は、六月二十七日に補正予算案など上程議案に対する採決が行われ、十六日間にわたる全会議日程を終えました。

なお、引き続きエネルギー価格の高騰を受け、国においては電気・都市ガス料金に、県においてはLPガス料金等に対し支援が行われます。

■経済情勢等について

自動車への追加関税措置に象徴される米国の通商政策の転換により、国内経済の見通しは先行き不透明感が増えています。

県では、影響が心配される中小企業や輸出関連事業者向け相談窓口を開設するなどの支援体制がとられています。

今後とも政府間交渉の動向を冷静に見極めつつ、国の交付金を活用した迅速な対応が求められます。

■観光立県おいたの前進について

県内経済の底上げについては、波及効果が大きい観光振興も重要な柱です。特に一人当たりの旅行支出額が高いインバウンド（訪日外国人旅行者）の影響は大きく、昨年の県内での外国人宿泊者数は過去最高の百五十万人を記録しています。

四月二日に台湾の大都市台北と大分を結ぶ初の直行便が就航しました。これにより台湾からの宿泊者が前年比で三割以上増加するなど、その効果が現れています。

なお、大阪・関西万博開催期間中、大分空港が「大

分ハローキティ空港」として運用されていますが、サンリオキャラクターの華やかな装飾を記念撮影するなど、利用者から好評を得ているようです。

■ホーバークラフト空港 往復便の再就航が決定

大分市西大分のターミナルと大分空港を結ぶホーバークラフトの定期便が、国土交通省の安全確認検査に合格しました。

これを受け、七月二十六日（土）から、約十六年ぶりに空港定期便が再就航することとなりました。

就航後は当面、一日四往復（計八便）で運航されます。料金はオンライン決済で大人片道二千円（現金購入は二千五百円・子どもは半額）です。

なお、別府湾周遊便も土日祝日に継続運航されます。安全運航に万全の体制で臨んでいただき、空港アクセスの利便性向上に期待します。

6日間かけて 県内一周 農林水産委員会 所管事務調査

県議会では、第2回定例会が招集される前段に、6つの常任委員会が手分けして県下全域を回り、各々が所管する事務・事業の調査を行います。

私の所属する農林水産委員会は、12自治体を訪問・視察し、各地域で創意工夫しながら努力されている皆さんの意見交換を行いました。

1日目 5月12日 月 県西部地域



日田梨リース団地（日田市北友田）：平成29年7月九州北部豪雨災害からの復興を図るために取り組まれた日田梨創造的復興プロジェクト。令和2年度によりやく団地が完成し、若手生産者も参入。

（株）日田中央木材市場（日田市友田）→大分県西部振興局（日田市）→水田畑地化推進基盤整備事業 - 杉河内地区 - （日田市天瀬町）

4日目 5月26日 月 県豊肥地域



スタートアップファームたけた（竹田市小塚）：農地、農業用施設・機械を整備し、就農希望者へ貸し出すことで、新規就農時の負担軽減を図る受け皿を開設した。

大分県豊肥振興局（竹田市）→農事組合法人グリーン法人中野（豊後大野市清川町）→宇田枝の農業農村整備（豊後大野市清川町）：奥岳川からの用水路整備、圃場整備2地区、ため池2か所を整備。

2日目 5月13日 火 県北部地域



（株）真玉キャトルファーム（豊後高田市西真玉）：牛の畜産業では県下有数の経営規模で、独自のコスト削減を行いながら高い品質を提供する優良な経営体。独自ブランド「豊後・米仕上げ牛」は豊後高田市ふるさと納税の返礼品にも活用されている。

三光平林もも団地（中津市三光）→大分県北部振興局（宇佐市）→白ねぎ新浜基盤整備圃場（宇佐市和間）

5日目 5月27日 火 県南部地域



佐伯広域森林組合（佐伯市宇目）：平成20年度に大型製材工場を整備し、「伐って、使って、植えて、育てる」林業をパッケージで提供する佐伯型循環林業を推進している。

大分県南部振興局（佐伯市）→JF おおいた蒲江加工センター（佐伯市蒲江）：大分県の養殖ブリ出荷量は全国トップレベル。国内のみならず海外マーケットも視野に入れたフィレ（三枚おろし）加工場を整備。

3日目 5月19日 月 県中部地域



JA おおいた野津ピーマン選果場（臼杵市野津町）：平成27年からピーマン栽培の新規就農者確保を進めてきた。経営面積拡大に伴い出荷量が増加してきたため、県補助事業により処理能力を倍増させた。

大分県中部振興局（大分市）→畑地帯総合整備事業（津久見市長目）：津久見市特産の柑橘類再活性化に向けて新たな柑橘団地の造成に着手。

6日目 6月 2日 月 県東部地域



車えび種苗生産センター（姫島村）：

クルマエビはウイルスに弱く、一旦病気が蔓延すると取り返しがつかない事態に。そこで、養殖による安定生産を図るため、大規模な養殖用種苗生産施設を整備した。

大分県東部振興局（国東市）



大分県災害中間支援組織が設立されました

災害発生時に、被災者のニーズに応じたきめ細やかな支援を提供するため、県内の専門団体や県外からの支援団体と連携し、支援を円滑に調整する『おおいた災害支援つなぐネットワーク（O-Link オーリンク）』が設立されました。

1 対象とする支援

一般ボランティアは、被災家屋の泥出しや家財の片付けが主になるが、今回設立する組織は、高齢者やこどもの支援のほか、炊き出しのノウハウを持つ方々を『専門ボランティア』として、被災者に寄り添った支援を行う。

2 主な役割

- ◆ 避難所等のニーズと専門ボランティアのマッチング
- ◆ 全国から駆け付ける支援の受入窓口として調整

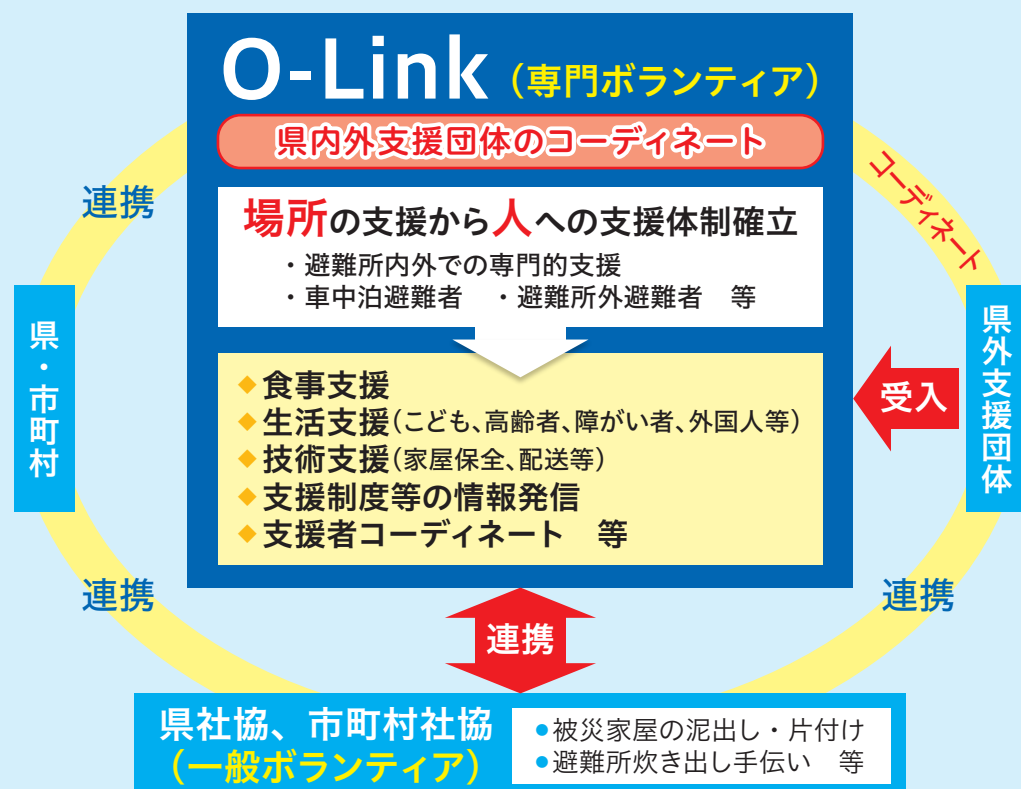
3 構成団体

- 県内NPO、ボランティア団体・個人等（約20団体・個人）
- 事務局：NPO法人おおいたNPOデザインセンター

4 スケジュール

- 4月～6月上旬 設立準備会（3回開催）
 - 6月24日（火） 設立総会
25日（水） 三者連携協定締結（県、O-Link、JVOAD）
- 【設立以降】⇒連携会議、研修、訓練、他県組織との連携等

5 災害時活動イメージ



参考

全国の設置状況：23団体
<九州・沖縄>

設置済み…福岡、佐賀、熊本、宮崎 設立準備中…長崎、沖縄 未定…鹿児島

最近の活動

4月

- ▶ 県民クラブ県外調査（東京都→千葉県柏市・匝瑳市→茨城県水戸市）
首都圏からの地方移住の相談窓口となる「ふるさと回帰センター」（右の写真）を訪問。そのほか、柏市の「柏の葉スマートシティ」、匝瑳市の「ソーラーシェアリング」や茨城県教育委員会の高校教育のあり方について調査。
- ▶ 大分政経懇話会「東京一極集中の是正と地域活性化のジレンマ」（金子 光 氏：慶應義塾大学上席所員）
- ▶ 第96回メーデー大分県中央大会
- ▶ 大分政経懇話会「国民と皇室の今とこれから」（新堀 浩朗 氏：共同通信社社会部編集委員）



5月

- ▶ 農林水産委員会県内所管事務調査スタート（表面に記載）
- ▶ 大分政経懇話会「トランプ関税と日本経済～物価高、地方経済への影響は?～」(熊野 英生 氏：第一生命経済研究所経済調査部主席エコノミスト)
- ▶ さがのせきビーチクリーンアップ作戦(こうざき海岸)
- ▶ 警察本部交通規制課交通管制センター視察
大分中央警察署の建屋内にある「交通管制センター」を視察。室内には各放送局のブースが設置されており、ラジオ等で「〇〇交差点で〇kmの渋滞」との放送は、アナウンサーがこちらの画面を見て実況しています。



6月

- ▶ 大分地方気象台視察
正確な天気予報を発表するため、ありとあらゆるデータを専門職員が解析しています。敷地内には、桜の開花宣言を判断するソメイヨシノの標本木もあります。
- ▶ おおいたホームタウン推進協議会総会
- ▶ 大分県遠隔教育配信センター施設見学会
上野丘高校内の配信センターから県内の高校（今年度は、臼杵・佐伯鶴城・日田・宇佐が対象）へ双方向型オンライン授業を配信する。
- ▶ 大分港大在西地区複合一貫輸送ターミナル供用式
トラックドライバー不足の影響から、輸送手段が海運へシフトしている。大分港から関東方面への貨物車輛も急増しており、大型船も着岸できる新たな埠頭用地が完成。
- ▶ 第2回定例県議会開会
- ▶ 連合大分「拡大政策・制度委員会」
- ▶ 地域共生社会とウェルビーイングを考える会 関愛会アカデミー講演会「強みとやる気の源泉をどう自覚し磨くか」（太田 雄介 氏：(株)はぴテック 代表取締役 CEO）
- ▶ 第2回定例県議会閉会

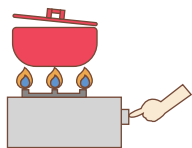


防災士 木田昇の

防災メモ

避難の判断②

災害発生後、正しい情報を得つつ家族の状況を確認できれば、次は家の中をチェックしましょう。（火の始末はできているか、避難するための経路は確保できているか等）



随時、ラジオ等で災害の最新情報に耳を傾けておきましょう。その後、周辺で危険な物・建物がないか、火災が発生していないか等を自分の目と耳で確かめます。



次に、隣人・近隣の住民に目を向けましょう。閉じ込められたり、下敷きになったり、避難の手助けが必要な人がいないかを確認。いざという時、助け合うことが大切です。



勤め先や学校など、自宅以外で大地震に遭遇した場合、安全であればその場にとどまりましょう。地震直後の連絡方法や行動は、家族とあらかじめ話し合ってください。



公式LINEはコチラ

木田昇の議会・政務活動を随時更新中。



ご意見・ご要望なども、お気軽にご連絡ください！
*QRコードからお友達登録をよろしくお願いします。

県民クラブHPIはコチラ

<https://kenmin-club.com/>



竹の子記

歴史的に米騒動は幾度も発生していますが、約三十年ぶりに米不足が世間を混乱させています。前回（平成五年）は、深刻な冷夏と長雨による日照不足を要因としたものでしたが、今回は大正七年のタイプに近いと見えています。当時、日本は急速な工業化が進み、農村部から都市部への人口流出で米の生産が停滞しました。そこにシベリア出兵の発表が加わり、米穀投機（米取扱業者の売り買い）や買占め（買い占め）の動きが広まり米騒動へとつながりました。全国各地で米の安売りを求める騒動や打ちこわしなどの暴動が数ヶ月間続いたそうです。▼先日、米の流通事業者との勉強会がありました。話によると、今年の二月頃からすでに在庫が少なく「妙だなく」と業界では噂になっていたそうです。そのことを政府がどう認識していたかは不明ですが、米の作付けが増やされることなく「令和の米騒動」を招いたとのことでした。（幸い今のところ暴動には至っていません）▼大分県は県民が消費する量の倍以上の米を生産する力を持っています。農村を守り、大地の恵みを全国に提供する農家を支える政策形成が今こそ必要です。

